

《生徒C》

私は動物園でトラを見るのが好きなので、トラの生息<sup>じょうききょう</sup>状況について調べました。

日本でも大昔のトラの化石が各地で見つっていますが、縄文時代のころまでに絶滅<sup>ぜつめつ</sup>したようです。

おとなりの朝鮮半島では、日本を統一した「お」が1590年代に出兵したときに、家臣の加藤清正<sup>やり</sup>が槍でトラをしとめたという伝説があります。1910年の「か」によって日本の植民地となった後、日本人がトラ狩<sup>が</sup>りをさかんにおこなったせいで朝鮮でもトラがいなくなったという説があります。

WWF（世界自然保護基金）によると、野生のトラは、20世紀の初めにはアジア各地に10万頭が生息していましたが、現在ではわずか4000頭ほどにまで減っており、絶滅が心配されています。その原因の一つは、トラの毛皮や漢方薬の材料となる骨をねらって、人間が狩<sup>か</sup>りの対象としてきたことです。また、トラの住みかである森林が破壊<sup>はかい</sup>されているなど、自然環境の変化も大きな原因です。たとえば、アムールトラ（シベリアトラ）が生息するロシア東部の森林地帯では、日本に木材を輸出するために森林が伐採<sup>ばっさい</sup>されているそうです。私は⑤図2-6と2-7の2つの資料から、日本が「★」ことによって、アムールトラを守ることができるのではないかと思います。

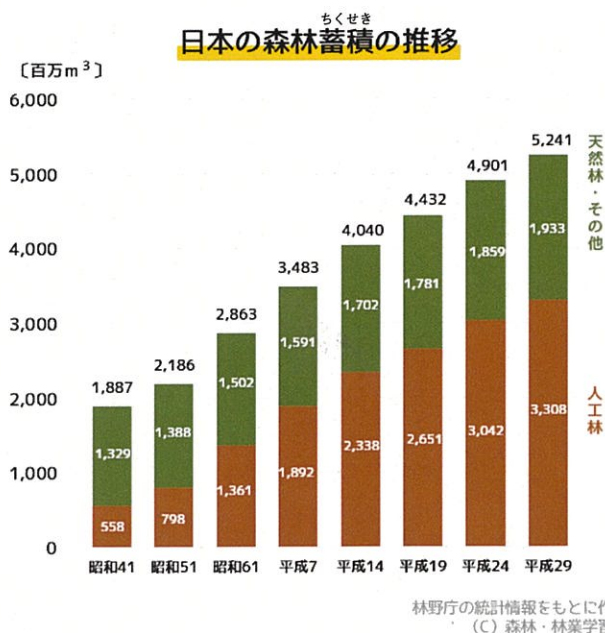


図2-6

(森林・林業学習館ウェブサイトより転載)

※「森林蓄積」は、森林を構成する樹木の幹の体積のこと。



図2-7

(森林・林業学習館ウェブサイトより転載)

※「木材需要(供給)量」は、1年間に消費される木材の体積のこと。